

### Aさん 道薬誌5・6月号『ブラッシュアップ講座についての実践記録』

テーマ(タイトル)：医療薬学 ブラッシュアップ講座 地域および在宅医療における薬剤師－1－  
北海道科学大学薬学部薬学科 社会薬学部門地域医療薬学分野 教授 坂東 勉先生

学 習 内 容：道薬誌5・6月号(Vol.40 No5・6(2023)) P36－39

この研修のまとめ：4回シリーズの1回目

\*1. 現在第8次医療計画における在宅医療に係る薬剤師の資質向上に関し記載されている。

今回の第1回目は在宅医療に同行した薬剤師が処方設計に関与した場合、薬剤数および薬剤費に関する内容についての研究結果の紹介。

\*2. 研究の背景

薬剤師の医療への貢献度を客観的評価するには、薬学的介入による経済的貢献としての薬剤費削減の数値化が必要。

この研究では社会保障費の適正化にかかる観点、保険薬局薬剤師が処方設計に関与した場合にもたらされる処方変化が、特別養護老人ホーム入所者1人当たりの薬剤数および薬剤費に与える影響に関しての調査。

\*3. 研究方法

在宅医が老健施設での訪問診療に薬剤師が同行し、個々の入所者の処方設計に参画した際の、入所者1人1か月あたりの薬剤数および入所者1人1日あたりの薬剤費を調査。

データは全てMean±S.E.で、統計解析はstudent's t-test

$P < 0.05$ の場合：有意差あり、 $p < 0.10$ の場合：傾向あり

\*4. 結果

薬剤師が処方設計関与前2008年7月を起点に2008.8～2009.11まで( $n=77-100$ )

2008.7月：薬剤数8.1→min6.0max6.8、変化

率(%)min74.3%max84.2%抑制と有意な減少

2008.7月：薬剤費342.1円→min277.3円max259.4円、変化率(%)min81.7%max75.8%抑制と有意な減少

降圧剤では

2008.7月降圧剤剤数2.2→min1.7max1.8、薬剤費93.0円→min62.8円max66.9円と有意な減少

\*5. まとめ

今回の検討では特老における入所者1人当たりの薬剤数・薬剤費は減少した。

入所者1人あたりの降圧剤の薬剤数・薬剤費も減少しアッシュビル・プロジェクト(以下AP)\*1とは異なった結果が得られた。

APでは薬剤師によるカウンセリングと服薬指導を行っているのに対し、今回の検討では医師の訪問診療に同行し、処方設計への参画をしたため、薬剤師の医療への関与の内容が異なっていた。

この事は薬剤師業務の多面的な貢献の可能性を示していると考ええる。

データにはないが消化性潰瘍治療薬、脂質異常症治療薬、鎮痛剤(N-saids)、脳神経系治療薬でも層別解析し、それぞれにおいて有意な減少・減少傾向が認められた。

地域における多職種連携で薬剤師と医師との処方設計における連携は薬剤数と薬剤費の削減に効果的だった。

また薬剤数減少による有害反応は認められず

医療の質の維持及び薬剤費の抑制を同時に満たしている。

副作用及び相互作用防止、医療の質と患者とのQOL向上、薬剤師が参画することによる診療チームの治療成績など、直接的には金銭には換算できない重要な薬剤師の任務に関しても今後可能な限り定量的な評価し、報告する必要があると思われる。

\* 1 : アッシュビル・プロジェクトとは

1996年ノースカロライナ州アッシュビル市役所職員対象(人口8万人)

糖尿病患者への薬剤師によるカウンセリング

と服薬指導の疾患改善の取り組み。

患者の薬剤費無料にすることとカウンセリングする事を義務化し、薬剤費は下がらなかったが、医療費全体が下がり、治療等による欠勤率低下など幅広い成果が出た

PS : 2-1-13、2-3-6、2-3-7、2-3-8、2-3-12、2-3-13、2-3-14、2-3-15、2-3-16が該当すると思われる。

試験期間的に10年後15年後だったらどうなっているのだろう？

**Bさん**

道薬誌7月号『ほっかいどう・おくすり情報室から』

テーマ(タイトル) : ジビエについて(ほっかいどう・おくすり情報室から)

学 習 内 容 : 道薬誌7月号(Vol.40, No. 7 (2023)) P22-23

この研修のまとめ :

学習目的 : ジビエの衛生管理を学び公衆衛生の向上、地域住民の健康増進に寄与する

学んだこと : シカ、イノシシ等の野生鳥獣が保有する代表的な病原体の種類と主な症状と食中毒の予防法を学んだ

●E型肝炎ウイルス

急性肝炎を引き起こす。臨床症状はA型肝炎と類似(発熱、悪心、腹痛等の消化器症状、肝腫大、肝機能の悪化)。大半の症例では安静により治癒。妊婦では劇症化を起こしやすく、致死率は20%

調理の際には加熱を徹底することが重要だが、血液を介して感染するリスクもあるので皮膚の傷などからの感染に注意する

E型肝炎ウイルスの死滅条件は75℃1分以上またはこれと同等の加熱が必要

●腸管出血性大腸菌

家畜や人の腸内にも存在する。有名なのはO157

出血を伴う腸炎や溶血性尿毒症症候群(HUS)を起こす

予防には十分な加熱のほか手洗いなどの衛生管理の徹底は必要

●旋毛虫(トリヒナ)

筋肉痛、発熱、悪寒、浮腫、好酸球増加が特徴的。少数感染の場合は無症状もあるが、多数感染で最悪の場合、4~6週後の呼吸麻痺を引き起こして死に至る

ジビエの肉は十分に加熱して喫食すること、まな板や包丁など使用する器具を使い分け、処理終了ごとに洗浄、消毒をし衛生管理の徹底が重要

参考 : 厚労省HP「ジビエの衛生管理」

感じたこと：「野生鳥獣肉の衛生管理に関するガイドライン」があり、国が注意喚起しているのが知れてよかった。参考 HP のリンクをたどることで、紙面だけで読むより深く理解が進んだ

十分な加熱、衛生管理の徹底はジビエ肉に限らず、市販の食肉でも同じことが言える

低温調理の注意喚起で内閣府の食品安全委員会でも示されている

鶏肉のカンピロバクター食中毒を防ぐために

は肉の中心温度が75℃で1分間、70℃で3分間、63℃で30分間の加熱が必要である

参考：肉を低温で安全においしく調理するコツをお教えします！（内閣府 食品安全委員会）

課題：ジビエを含めて食肉の扱いについて、しばしば誤った情報がみられる。地域住民の保健に関わる知識を身につけるだけでなく、伝えることも必要だと感じた

コメント：

ポートフォリオは様々な分野で活用されていますが、特に学習に用いられる場合は、「学習実践記録」、つまり学習のメモや参考資料のコピー、作成したレポートなどをまとめたもののことを指します。ポートフォリオを作成する目的は、学習をし、まとめたあとに見直して(振り返り)、自己評価し、自身の成長につなげることです。

Aさんのポートフォリオを読むと、ブラッシュアップ講座の記事から、在宅医療に係る薬剤師の資質向上について、深く学んだ様子が読み取れます。また、該当のPSが複数記載されており、実際に学んだ内容が、どの到達目標に繋がるのかについて振り返りができているのが良いですね。

次回以降は、ぜひ、PSだけでなく、自身が何のために学ぶのかをあらかじめ考えて、ポートフォリオに自身の「学習目標」を記載するとより良いと思います！

Bさんのポートフォリオは、学習目的、学んだこと、感じたこと、課題の4つに項目分けをして記載されており、後から読み返しても非常にわかりやすいですね。ポートフォリオは、自身の振り返りに活用するものですので、見やすさは非常に重要です！

また、Bさんのポートフォリオでは、自身が何のために学ぶのか、その学習目的が明確になっています。欲を言えば今回の学習を通じて、その目的がどの程度達成されたか、今回学んだ内容を目的達成のためにどのように活用するのかを具体的に追記するとより良いポートフォリオになると思います！

(北海道科学大学薬学部 教授 山下 美妃)

▶ 道薬メールニュースへのご登録のお願い ◀

全道の会員の皆様にいち早く最新情報をお届けする《道薬メールニュース》は、令和元年12月より、使用サイトを変更し運用しております。道薬HPの更新情報をはじめ、学会、研修会や調査、申請など、皆様の業務に関わる事柄及び、災害時・緊急時のお知らせまで、会員の皆様に役立つ情報を配信してまいりますので、ぜひご登録されますようお願いいたします。

ご登録方法

北海道薬剤師会 HP 会員専用エリア



北海道薬剤師会メールニュース登録



\*メールで返信

お名前、配信希望アドレス、  
勤務先名、会員番号を本文に記入。